

## 令和元年度第2回倉敷市地域包括支援センター運営協議会議事要旨

### 1 会議名

令和元年度第2回倉敷市地域包括支援センター運営協議会

### 2 開催日時

令和2年1月29日(水) 13:30～15:00

### 3 開催場所

倉敷市役所3階議会第2会議室

### 4 出席者

#### (1) 委員(12名)

今井 博之 (倉敷市連合医師会)  
岡野 敏郎 (倉敷市社会福祉協議会)  
川西 三貴 (倉敷市内歯科医師会協議会)  
甲加 和歌子 (岡山県薬剤師会倉敷支部)  
嶋田 武 (岡山県備中県民局健康福祉部)  
田辺 牧美 (倉敷市議会保健福祉委員会)  
津田 由起子 (倉敷市介護保険事業者等連絡協議会)  
永瀬 潤一 (倉敷市民生委員児童委員協議会)  
中田 雅章 (岡山県社会福祉士会)  
畑 陽子 (倉敷ねたきり・認知症家族の会)  
三浦 巧 (岡山弁護士会)  
三宅 直子 (岡山県看護協会倉敷支部)

#### (※下記4名が欠席)

石合 瑞恵 (岡山県介護支援専門員協会倉敷支部)  
兒山 和子 (倉敷市栄養改善協議会)  
福元 秀子 (倉敷市老人クラブ連合会)  
吉峯 清美 (倉敷市愛育委員会連合会)

#### (2) 事務局(9名)

田邊 錬太郎 (保健福祉局 参与)  
渡邊 浩 ( 〃 健康福祉部 参事)  
河本 伊津子 (地域包括ケア推進室 室長)  
笠井 幸雄 (地域包括ケア推進室 主幹)  
橋村 和樹 (健康長寿課 主任)  
守屋 直樹 (介護保険課 課長補佐)

渡邊 美和子（福祉援護課 主任）  
同前 和也（地域包括ケア推進室 主任）  
井上 容光（ ” 副主任）

## 5 議題

- (1) 小地域ケア会議等を通じた地域づくりの推進について
- (2) 令和元年度高齢者支援センターの巡回訪問
- (3) 倉敷市における高齢者支援センター事業評価結果の全国との比較
- (4) 令和2年度高齢者支援センター事業計画（案）について
- (5) その他

## 6 傍聴者の数

無し

## 7 審議内容

### 1) 開会

### 2) あいさつ

田邊保健福祉局参与が開会挨拶

### 3) 自己紹介

新委員自己紹介

事務局自己紹介

### 4) 議事

#### (1) 小地域ケア会議等を通じた地域づくりの推進について

事務局より説明。倉敷西高齢者支援センターより「中島地区お助け隊～中島地区小学校区小地域ケア会議の取り組み～」の発表の後、質疑応答。

## 委員A

とても素晴らしい取り組みとあって感心して聞かせていただいた。5つのお手伝いが示されたが、例えば草取りなど、お助け隊に依頼をして最長でどのくらい待てば対応していただけるか。また、お助け隊の年齢はどのくらいか。

## 倉敷西高齢者支援センター

依頼があればすぐに隊員さんに連絡をして、いつ頃対応できるかの相談をしている。ゴミ出しは曜日が決まっているが、草取りは最長で概ね1週間以内に対応している。隊員さんの年齢は30～80代と幅広く、一番多いのが70代の方であり、元気な70代の方が主になって支えてくださっている。30代の方は仕事をされているが、地域の愛育委員さんへ説明をさせていただくことで、若

い方が何名か登録をしてくださっている。

#### 副会長

地域ケア会議のシステムを活用して、地域ニーズを自らセンターがアセスメントを行って作り上げてきた好事例ということで感心した。平成20年の10月から地域ケア会議の開催をしているということであるが、地域の方と顔を定例的に突き合わせてその中で地域の方との関係性が生まれてくることで、本当の意味でのネットワークの素地ができているからこそ、こういうアイデアができてくるのではないかと思う。そういう意味で、地域ケア会議の回数、顔を突き合わせる事が重要だとの事例から考えさせられた。今後課題となることはシステムを作り上げた後、人とお金をどうするか、維持費の問題として担い手とお金のことをどうするか、社会福祉協議会でもいろいろな人をどのように巻き込んでいくかが話題となっているが、担い手をどのように増やしていこうとしているか、アイデアがあれば教えていただきたい。地域共生社会という中で、障がいがあり地域で一人暮らしという方もおられると思うが、良いシステムを作られたので、他のところと協力しながら、高齢者以外も交えたシステム作りの可能性についても今後ご検討していただけたらと思っている。

#### 倉敷西高齢者支援センター

担い手の件だが、課題でもあげているように、主で動いてくださる方が70代の方であり、ゴミ出しは週2回のため負担に感じる方もおられて、違う方をお願いできないかという声も出ているので、小地域ケア会議委員さんを含めた作業部会があるので、そこで話をしていきたいと思っている。地域共生社会については、小地域ケア会議の中に障がい者支援センターの方にも入っていただけている。地域ということになるので小学生を含めた認知症サポーター養成講座もしており、地域共生社会の検討をしていかなければいけない時期が来るのではないかと思っはいるが、現在は模索中である。前向きにいろいろと検討していきながら地域で取り組んで行きたいと思っている。

#### 委員B

この取り組みが継続していくことがとても大切なことと感じている。この取り組みの中では、各地区のリーダーさんたちの負担感が、仕組みが活発になればなるほど増えてくるのではないかと思う。実際に動いたお助け隊の方には100円などという報酬があるが、リーダーさんたちの役割に対しては何か報酬などは考えておられるか。

#### 倉敷西高齢者支援センター

リーダーさんが果たしてくれている役割はとても大きいと思っている。リーダーさん同士の交流会のようなものが出来たらと考えていたが、この度、貴重な意見をいただき、その部分については改めて考えていきたいと思っている。

#### 委員C

ある自治体では社会福祉協議会がこのような活動を有償ボランティアで行っていたが、その時に問題となっていたのが、シルバー人材センターなどのサービスと重複したときである。料金が、社会福祉協議会の有償ボランティアの方が安くなっていて、高齢者でも所得が少ない方にはこのサービ

スを勧めているが、既存のサービスとのすみ分けに気を遣っているということがあった。そのあたりはどう考えているか。

倉敷西高齢者支援センター

お助け隊については社会福祉協議会にも入っていただき話をしているが、特に問題になることはないが、一般の「なんでも屋さん」からどういう趣旨でしているのかという問い合わせを受けたことはある。お助け隊は安価で、地域の取り組みとして互助のシステムとして利益を追求しているわけではないと説明をした。ただし、確かにこの取り組みが広まるとそういう問題についても他の組織との間で出てくるかもしれないと感じている。

会 長

民業圧迫という話になると大げさになるが、ただし、そのような会社の方はもっと付加価値をつけていくように思われる。

## (2) 令和元年度高齢者支援センターの巡回訪問

事務局より説明の後、質疑応答。

委員D

市から高齢者支援センターへの指導はあると思うが、逆にセンターから、悩みや市に対して要望が出されていたら教えてもらいたい。

事務局

随時個別のケース対応について相談を受けさせていただいたり、事務的なことをもう少し簡素化できないかというご意見をいただいている。

委員D

事務的なことが非常に煩雑とか、人員が確保できないとか、ケアプランがかなり増えてきて困るなど、これらのことは次の方針に活かしていただけるということか。

事務局

報告書類の簡素化など、高齢者支援センターの負担が減らせるように検討をしている。

委員B

公正中立の確保のところで、文書指導をしている1センターが「特定事業者が提供するサービスへの偏りが80%を超えている」ということだが、結局何年も改善されず今に至っているのか、それとも平成30年度がこうだったということであるか。

事務局

昨年度も同じセンターに文書指導をしている。ただし、地域的な資源の数の事情もあり、難しい状況である。ケアプラン作成時には必ず複数の事業所の説明もしているが、利用者が同じ事業所を希望するという現状である。

#### 副会長

複数の事業所を提示するのは大前提の話であるが、エリアにサービス事業所がないのは致し方ないことかと思う。資料を見る限りではエリアの問題ではなく、利用者に提示するやり方が利益誘導につながっているという風にとれてしまう。この改善報告に関して、1センターが同じ状況で、改善されていないということは、この報告を受けて市としてはどのようにチェックを入れていくのかモニタリング体制を聞かせてほしい。

#### 事務局

地域性もあり、サービス事業所が他の地域に比べて少ないことと、他の事業所を提示しても、地域の方の意向で、結果的にその事業所が運営しているサービスを利用される方がほとんどであると聞いている。モニタリング体制については今後検討をさせていただきたい。

#### 委員B

その高齢者支援センターの委託先運営法人と、先ほどからの介護サービス事業所の運営法人が同一法人ということだが、それは公正・中立から考えても問題が大きいと思うので、市としてモニタリングをしっかりしていただき、改善をしていただきたい。

#### 会 長

80%を超えているということは、ほぼ100%であるか。

#### 事務局

月により変動はあるが、平均すると80%は超えているという状況である。

#### 会 長

総合相談支援事業「実態把握調査」について3センターが基準件数を下回った理由として、経験年数の浅い職員の配置やその他の業務量の増加などによりと書かれているが、この3センターは平成29年度実績でも基準を下回っていたか。

#### 事務局

この3センターはいずれも平成29年度は基準を下回っていない。平成30年度は、1つのセンターは産休に入った職員、平成30年3月から5月に配置された職員など、プランナーも含め、職員の異動が多くあった。また、療養休暇に入った職員の代わりに非常勤職員の配置をしたが、他の相談業務も重なり達成できなかったセンター。そして、一人の職員が育休明けで時短勤務かつ、地区会長と職種部会の会長と3職種中2人が役員業務と重なったため、実態把握調査に影響が出たという状況だった。

会 長

今後も円滑な各高齢者支援センターの運営に向けて、引き続きよろしくお願ひしたい。

(3) 倉敷市における高齢者支援センター事業評価結果の全国との比較

事務局より説明。質疑なし。

(4) 令和2年度高齢者支援センター事業計画(案)について

事務局より説明の後、質疑応答。

副会長

小地域ケア会議を通じた地域づくりの推進の部分の提案だが、会議の開催は手段であって、地域づくりが目的だと思うので、「地域課題の解決に向けた取り組みになるよう関係機関等と協力して、会議の充実に努め、高齢者が生きがいや役割をもって、元気で活躍できる地域づくりを推進する。」と、文言を追加してもらえるといいと思う。

事務局

アドバイスをいただいたとおり、修正させていただき、各センターに示していきたいと思う。

会 長

その他特に問題がないようなら、先ほどの訂正箇所を修正していただいて、承認という形でよろしいか。

(各委員 承認)

会 長

では承認されたということでよろしくお願ひしたい。

(5) その他

事務局より講演会についてのお知らせ

会長より倉敷市連合医師会からのお知らせ

5) 閉会挨拶

渡邊健康福祉部参事が閉会挨拶